

沼津市

# 明治史料館通信

1994. 7. 25 (季刊 年4回発行) Vol.10 No. 2 通巻第38号



明治4年(1871)夏、沼津を訪れたイギリス人が撮影した沼津兵学校の生徒たち  
THE FAR EAST より(横浜美術館所蔵)

この写真とともに「ファー・イースト」に掲載されたイギリス人の紀行文は、『新編物語藩史』第5巻(1975年)、『沼津市明治史料館通信』第2号(1985年)、ヒュー・コータッチ「外国人が見た江戸・明治の静岡⑥」(『静岡新聞夕刊』1987年9月21日)などに抄訳されているので参照されたい。

**沼津市明治史料館は今年で満10歳!!**

展示に、教育普及に、史料の収集・保存にこれからも頑張ります。  
変わらぬ御愛顧をお願い申し上げます。

シリーズ

沼津兵学校とその人材

35

## 沼津兵学校研究の先達たち

沼津兵学校の歴史の意義はその廃校後それほど遠からぬ時期において既に高く評価されていた。

明治二十七年（一八九四）に建てられた沼津兵学校記念碑の銘文にも、撰者中根香亭によってその意義（学制の先駆であったこと、他藩からも注目される教育内容であったこと、多くの人材を朝野に輩出したこと）が明記されていた。

しかし、同窓生たちのノスタルジーではなく、歴史研究の対象として沼津兵学校に注目したのは誰が最初であっただろうか。

地元沼津の平民出身であったが自らも兵学校附属小学校に学んだ経験をもつ間宮喜十郎は、小学校の教師をつとめられたわら郷土の歴史・地誌の研究に没頭した。彼の関心は幅広かったが、近世から近代にかけての沼津の教育の歴史についても深い興味を抱いていたようである。間宮は明治二十二年

から二十四年頃にかけて「沼津小学沿革史」（沼津市立駿河図書館が一九七三年に翻刻）という原稿をまとめ、その中で沼津兵学校（特に附属小学校）のことを史料や自らの記憶などに基づき記録化したのである。しかし、間宮は早世したため原稿はその後長く公表されることはなかった。

出身者の回想録としては、大正二年（一九一三）に「静岡民友新聞」に連載された黒川正（附属小学校生徒出身）の「沼津時代の回顧」がある。これはまさに当事者だけが知りうる具体的な状況が記されたものであり、今となつては貴重な史料であるが、客観的にも筆者の意図としても歴史の研究でも叙述でもない。

同時期、兵学校出身の多くの人物について紹介したものに伊東圭一郎著『東海三州の人物』（一九一四年刊）がある。同書は静岡県出

身の人物列伝であるが、その中の三十ページを「沼津兵学校の人材」の項にあてている。もとは『静岡民友新聞』に連載



「沼津兵学校沿革」など多くの論稿を発表した石橋絢彦

（石橋ちか子氏提供）

したものであり、それに刺激され黒川正が「沼津時代の回顧」を執筆することになったという経緯がある（同書の角田浩々歌客序文）。一方、大正期には東京において本格的に沼津兵学校の記録化を志した人物が登場する。沼津兵学校資業生出身の工学博士石橋絢彦である。石橋は大正四年（一九一五）から九年（一九二〇）にかけて旧幕臣の親睦会誌『同方会誌』に「沼津兵学校沿革」と「沼津兵学校職員伝」を連載し、多くの史料を紹介し、学校の内容や人物について詳しく記述したのである。

石橋のそれは、彼自身の体験にもとづく記述のみならず、自分が保管していたり同窓生から借覧したりした当時の文書史料をも駆使した、史料的にも価値の高い仕事であり、その後の沼津兵学校研究に資するところが大きかった。

ちなみに石橋は工部大学校で学んだ日本における灯台建設のエキスパートであり、優れた技術者であったが、江戸時代史研究を趣味とするような一面も持っていた。彼は他にも、『同方会誌』に「静岡学問所職員同小学校掟書」「吹田鯛六君伝」「三条大橋の制札外し一件」「万野原移住者」といった論稿を投稿したり、また『中井ふく昔譚』（一九一二年）・『回天艦長甲賀源吾伝』（一九三二年）を著作するなど趣味の域を越えて歴史研究に取り組んだ。

石橋の「沿革」「職員伝」は、大正五年（一九一六）刊行の『静岡県駿東郡誌』、同十二年（一九二三）刊行の『江原素六先生伝』の記述にも大いに活用されたようだ。石橋は残念ながら沼津兵学校に關する単行本を刊行することはなかったが、最初にそれを実現した

のは米山梅吉であった。米山は兵学校の後身沼津中学校の出身者であり、我が国ロータリークラブの創設者として知られる実業家である。昭和九年（一九三九）刊の『幕末西洋文化と沼津兵学校』がその著書である。

同書は洋学史・幕末維新史の中に兵学校を位置づけ叙述したものであり、付録として「徳川家兵学校掟書」を掲載するなど、史書としても確かなものである。しかし、少年時代を過ごした郷土への愛情にもあふれ、暗い戦争の時代に向かいつつあった当時の日本にあって明治初期の地域文化の独自性を強調した点在野の人である米山らしさが表れていた。

米山の著書に前後して、沼津の人 **大野虎雄** が著作活動を開始する。彼は静岡藩軍事掛の幹部として



沼津兵学校に関する最初の単行本『幕末西洋文化と沼津兵学校』を著わした米山梅吉

て兵学校の管理部門に在職した大野寛一を祖父に持った人であり、昭和のヒトケタから十年代にかけて静岡県の郷土史研究誌『静岡県郷土研究』に沼津病院や兵学校に関する文章を次々に発表した。

大野の戦前における最大の仕事は、『沼津兵学校と其人材』（一九三九年）、『沼津兵学校附属小学校』（一九四三年）の刊行である。この二書は沼津兵学校に関する単行本としては現在もその価値を失っていないものであり、一九八三年には復刻版が出された。

執筆にあたり大野は、伊東・石橋・米山らの著述を参考にしたばかりでなく、当時まだ現存していた関係人物やその縁者・子弟に様々な史料・情報の提供を受けたようであり、列伝部分の充実が一段となされた。ただし現在の我々にとって不幸なことは、大野が収集したそれらの原史料を目にするのができない点である。叙述のもととなった史料がいつか世に出ること

を期待したい。  
大野は研究・著作のみな

らず兵学校の顕彰にも熱心に取り組み、昭和十四年（一九三九）には沼津兵学校創立七十周年記念会を開催する中心として尽力した。

戦後も大野の活動は盛んで、戦争中計画されたが実現しなかった市誌編纂に参画し、『沼津市誌』全三巻（一九五八、一九五九）の執筆に加わり、兵学校に関する部分を担当した。沼津史談会を結成しその会長をつとめ、『沼津史談』誌上にも維新史関係の文章を幾つも発表し続けた。

さて戦後になると学問の自由が保障され、個別分野の研究が深化する中で、科学史・教育史・英学史・書誌学といった各方面からの沼津兵学校研究が進められるようになっていった。

それに伴い、沼津兵学校の歴史的评价も定まり、教育史の概説や静岡県の通史などにおいては必ず触れられるような存在となった。

こうした先達たちの業績の上に一九八四年沼津市明治史料館は開設した。「明治」という館名の由来は、館が扱うテーマである沼津兵

学校と江原素六とが、沼津市の明治維新や明治時代を象徴し代表するものであるとされたことによる。

そして沼津市明治史料館ではこの十年、兵学校関係の史料収集とその公開・提供（展示・刊行物による）に取り組んできた。

兵学校の教授・生徒の子孫を追跡し、連絡を取りお伺いした。百二十年以上の歳月を経た現在、既に孫か曾孫の代となっているが、関係者の皆様からは温かい御協力をいただくことができた。その数は一〇〇軒程度にはなっているだろう。

また、兵学校の教科書や関係人物の著作を数多く収集した。現在二五〇点・六百数十冊余にのぼる。沼津兵学校が輩出した人材の優秀さは、その著作の多さにも現れており、まだまだ収集すべき本は少なくない。

これからも調査・収集・研究活動は永遠に続くであろうし、続けなければならない。それが先達たちの遺志を継ぐ史料館の役割なのだから。

お知らせ欄

◎企画展「沼津兵学校の群像」の開催について

今年は当館の開館十周年にあたります。そこで今回の企画展では常設展示の大きな柱である沼津兵学校をテーマとして改めて取り上げ、十年間の史料調査・収集の成果を公開します。沼津兵学校の歴史の意義について認識を新たにしていただければ幸いです。

期間…7月1日(金)～9月29日(木)  
会場…3階北側・4階展示室

◎図録「沼津兵学校の群像」の刊行について

企画展にあわせて図録を刊行しました。沼津兵学校とその人材に関する新史料を多数盛り込んだものです。一九八六年に刊行した図録『沼津兵学校』が品切れとなつてしまひ久しく、関心をお持ちの方には不自由をおかけしておりますが、新しいこの図録を是非ご利用下さい。

規格…B5判・60ページ

(内カラー4ページ)

頒価…九〇〇円

◎歴史講座の受講生募集

企画展に対応したテーマで歴史講座を開催します。日程・講師・内容は表の通りです。問い合わせと申込みは当館まで電話で。時間…午後2時～4時

場所…当館講座室  
定員…一〇〇名 受講…無料

日程	講師	内容
9月4日(日)	東京大学史料編纂所教授 宮地正人氏	「幕府陸軍から沼津兵学校へ」
9月11日(日)	日本地図資料協会会長 師橋辰夫氏	「日本近代測量の黎明・沼津兵学校」
9月18日(日)	沼津市明治史料館学芸員 樋口雄彦	「沼津兵学校関係人物の追跡と史料館の10年」
9月25日(日)	常葉学園富士短期大学常葉学教授 山口博氏	「沼津兵学校と英学」

◎映画「沼津兵学校」上映会の開催と無料開館日について

企画展に関連し、今井正監督・一九三九年東宝作品「沼津兵学校」(81分・モノクロ)の上映会を開催します。当日は展示室も無料開放します。

日時…7月31日(日)午後2時～

8月14日(日)午後2時～

8月21日(日)午前10時～

9月15日(木)午後2時～

場所…当館講座室 費用…無料  
また上映一時間前に学芸員による展示解説を行います。

どうぞご自由に来て下さい。

◎「平和を考える親子戦争史跡めぐり」の参加者募集

昨年に引き続き今年も沼津市内に残る昭和の戦争に関係した史跡を見学します。地域の近現代史の学習であると同時に平和の意義を考える機会にもなるでしょう。

日時…8月16日(火)、午前9時から午後4時まで。雨天の場合

は8月18日(木)に延期。

対象…小中学生とその父母

定員…一〇組二〇名

費用…無料、但し弁当持参のこと

コース…明治史料館集合―震洋・

海竜格納壕―海軍技術研

究所跡―御成橋空襲被弾

痕―沼津海軍工廠工員養

成所跡碑―史料館で昼食

―沢田部落移転碑―高角

砲部隊のトーチカ―東権

路戦災記念碑―拓南訓練所跡―「一太郎やあい」

碑―史料館で解散。

申込み…電話で当館まで。マイク

ロバスの定員があるため

先着順とします。

◎古文書解読入門講座の受講生を募集します

古文書に初めて接する方を対象にした入門講座です。申込みは当館まで電話でどうぞ。

日程…8月6日、13日、20日、27

日、9月3日、10日の毎土

曜日、計6回。場合により

内一回が9月17日(土)になる

こともあり。

時間…午後2時～4時

場所…当館講座室

講師…友野博氏(沼津市文化財保

護審議会委員)

費用…無料。古文書辞典をお持ち

でない方には斡旋します。

沼津市明治史料館通信 第38号

編集 沼津市明治史料館  
発行

〒40沼津市西熊堂三七二―一  
電話〇五五九一三三三三五  
FAX 〇五五九一五三〇一八